

自然の力を授かる 熊野古道を歩こう

かつて“蟻の熊野詣”と呼ばれたほど、多くの人を訪れた熊野古道。神のこもる国と信じられた熊野は、極楽往生の靈験あらたかなものとして全国に広まりました。現代も老若男女を問わず、世界中から「歩く」ことを求めて人々が集まります。世界遺産に登録されて10年の古道をスタッフが歩いてみました。



紀伊山地の霊場

紀伊山地は、標高千〜二千メートル級の山脈が走り、年間3千ミリを超える雨により、豊かな森林を持つエリア。神話の時代から、神々が鎮まる特別な地域と崇められていました。「吉野・大峯」、「熊野三山」、「高野山」の3つの「霊場」と、そこにいたる「参詣道」(巡礼道)が生まれ、全国から多くの人々が訪れるところとなりました。

また、この周辺を取り巻く山、森、川、滝、温泉などの景観も人々を魅了してやみません。世界文化遺産に登録され、平成26年(2014年)10月、日本だけでなく世界中から多くの人々が訪れる「癒しと祈りの聖地」です。古代の人が辿った道のほんの一部ですが、想いを馳せながら歩いてみました。